

立命館 災害復興支援室 瓦版

かわらばん

【第26号】2015年1月30日発行

【告知】

春期休暇中に復興支援活動をする
学生の旅費の一部を支援します



▲今夏活動の様子

立命館ではこの夏、東日本被災地域のボランティアへ個人、サークル、課外活動等グループなどの小集団で活動を行った学生を対象に旅費の一部を支援しました。その結果70名の学生がこの制度を利用して活動を行ない、活動レポートのなかで、復興の遅れへの驚き、現地の方々との交流を通して現地へ訪問する意味、自分たちの活動の意味などそれぞれ思いを寄せました。災害復興支援室では春期休暇中もこの制度を実施して多くの学生たちが復興支援活動に参加できるよう制度を継続します。

【支援する旅費について】

<交通費>

- ・関西圏発着で、高速バス利用を含む公共交通機関での移動を想定した旅費の一部を支援する
- ・支援額は、主な活動先や活動集合先ごとに、支援額の上限を設ける
- ・関東圏の帰省先を旅費の発・着の地点とした場合の支援についても相談があれば、別途対応する

<宿泊費>

- ・2泊以上－最大6泊までの宿泊費を対象に、1泊あたり3000円を上限として支援。

<ボランティアツアー参加の場合>

- ・発着地点や活動地をふまえて、災害復興支援室で支援対象かを判断。
- ・支援可の場合、交通費の支援額はツアー発着地点や活動地域で決定。

□■□この件についての問い合わせ先
立命館災害復興支援室
朱雀キャンパス6階・社会連携課内
311fukko@st.ritsumei.ac.jp
TEL：075-813-8282
受付時間 平日9：00-17：30

■春期休暇中ボランティアバス企画 【第29便】後方支援スタッフ派遣 気仙沼ツリーハウスプロジェクト 第4弾）派遣メンバー募集

立命館災害復興支援室では2011年12月より東日本大震災の被災地域に学生を派遣し、活動と交流を通じて震災の課題について学ぶことを目的としたボランティアバス企画「後方支援スタッフ派遣プロジェクト」を継続的に実施しています。

今回は、2014年6月から津波被害を受けた東北沿岸部の新しい魅力づくりのため立命館と地元の方々と共に取り組んでいる「気仙沼・鮎立ツリーハウスプロジェクト」をすすめるため、第4期メンバーを募集します。

▼ツリーハウス建設予定地



【実施概要】

日程：2/15（日）－2/20（金）
活動場所：宮城県気仙沼市鮎立（しびたち）地区
募集人数：10名程度＊教職員引率有
活動内容：ツリーハウス製作
連携組織：東北ツリーハウス観光協会
費用：集合場所から現地までの往復交通費、宿泊費（朝夕食つき）は立命館災害復興支援基金・復興＋R基金で補助。移動中の食事と民宿滞在中の昼食（1回500円程度）は各自負担。

【予告】

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター京都シンポジウム
『ほんとの空が戻る日まで～東日本大震災及び原発事故からの福島の闘い』開催のお知らせ

日時：2015年3月8日（日）
12時00分～17時20分
場所：立命館大学朱雀キャンパスホール
主催：国立大学法人福島大学、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
共催：立命館大学、国立大学法人大阪大学

後援：文部科学省、復興庁、福島県、京都府、京都市、双葉地方町村会、公益社団法人経済同友会他

内容：
Ⅰ部 堀潤氏による基調講演
Ⅱ部 福島大学教員による現状報告
Ⅲ部 立命館・福島大学教員によるパネルディスカッションテーマ：「震災・原発事故からの福島の闘い」
取り組み紹介・写真展示コーナー

★Ⅲ部パネルディスカッションでは、立命館大学より文学部サトウタツヤ教授、経済学部久保壽彦教授が登壇。
★当日10：00より岩手・宮城・福島の中高生100人が製作したドキュメンタリー映画：OECD東北スクール「東北復興祭（環WA）in PARIS」の上映（鑑賞自由）も行います
詳細は災害復興支援室HPをご覧ください。



【予告】3.11追悼企画 「いのちのつどい」開催

震災発生から4年目となる2015年3月11日（水）、これまでの学園の取り組みを共有し、学内外に発信する場として追悼企画を開催します。
追悼企画では、3月11日を迎え、犠牲になられた方々へ思いを馳せ追悼の時間を共に過ごし、災害復興支援活動に関わる学生、教職員などのネットワーク形成・交流・情報共有を目指します。企画の詳細につきましては、大学公式ホームページ、災害復興支援室ウェブサイトにて随時公開していく予定です。対象：教職員、学生等、地域を含めた一般の方など

日時：2015年3月11日（水）
12:00～15:30（予定）
場所：立命館大学朱雀キャンパス1階多目的室
内容：・場の開放と会場参加型トークセッション
・追悼のとき（献灯・黙祷他）
・その他

▼昨年のいのちのつどい（BKC）様子



●関連企画として、立命館の復興支援の取り組み、福島大学うつくしまふくしま未来支援センターの活動取組み他などのパネル展示を予定しております。
期間：2015年3月9日～13日
場所：立命館大学朱雀キャンパス1階ホール（予定）

【活動レポート】 立命館 復興支援の取組み

●後方支援スタッフ派遣プログラム
第28便 サンタが町にやってくる！
～岩手★おおふなと★大作戦～
12月19日（金）～22日（月）学生23名が岩手県大船渡市地元関係者が主催するクリスマス企画のボランティアメンバーとして活動を行いました。夜行バスに乗り、翌朝到着した陸前高田市では、地元語り部のガイドで被災現場を巡りながら、当時の様子や現在の復興状況、震災の教訓について学びました。
夜、大船渡市役所職員で本学OG平野桃子さんと夕食を囲み大船渡の現状などについてお聞きし、学生からは現地視察を踏まえた質問が寄せられ活発に平野さんと意見交換、交流を行いました。翌朝はクリスマスイベントにサンタ姿で参加し、大船渡市内5コースに分かれて子供たちにプレゼントを届けた他、公民館等で催された交流企画のサポートを行いました。
今回の派遣に参加した応援団吹奏楽部員は、楽器によるパフォーマンスを行い、地元の子供たちが曲に合わせて楽しそうに踊っている姿に、ご家族や地域の方々もおもわず笑顔になり、楽器演奏を通じて笑顔の連鎖が生まれていました。

▼活動の様子



▼参加した学生の声（抜粋）

関西から被災地へ足を運ぶことは労力が要るが、継続して活動を行い、被災地の「リアルな今」を持ち帰って関西で発信していくことは重要。関西から活動する者が少ない中、学生として東北の今を絶えず発信していきたい（国際関係学部1年生）

■復興＋R基金での附属校を 主体とした災害復興支援活動の支援

【立命館宇治中学・高等学校】
福島×京都
～高校生の私たちができること



立命館宇治中学・高等学校では、原子力の課題は世界や日本の未来にとって最も大きく深刻な問題で将来を担う私たちが避けて通れない課題ととらえるとともに、多くの人に被災地の現状と高校生の考えを知ってもらうことを目的に取り組みを行っています。8月には福島県の中学、高校生を宇治校に招待し交流を実施し、12月21日～23日には福島県を訪問し、放射線量測定、南相馬市訪問、福島市や本宮市の各仮設住宅に訪問し、地元の方との交流の場を設けました。

【立命館守山中学・高等学校】 人のつながりを大切にした支援



守山中・高では、東北支援の活動を通じて被災地域や被災者の状況について理解を深めることを目的に、冬休み期間に、石巻市の新聞社や女川原発の視察の他、仮設住宅を訪問、南三陸町でのボランティア・交流活動を実施。現地ではそこで暮らす人々との交流やヒアリングを通じて、復興状況の地域格差などの現状から、復興のために高校生ができること、できないこと、について考えました。

今後の主な取組み予定

○インドネシでの復興支援の研究・学生交流 1/31（土）～2/3（火）

立命館大学より教員・学生がインドネシアを訪問し、災害・防災をテーマに国を超えた経験共有の場とするフォーラムを開催します。災害復興支援室では学生シンポジウムを主催、ガジャマダ大学の学生たちと大規模災害に関する学生の取組みや、両国の被災者支援活動についての経験を共有し、自然災害発生リスクの大きいアジア地域の未来をともに考えながら、交流を行います。

○後方支援スタッフプログラム第29便（2/15～20）（本文に掲載）

気仙沼ツリーハウスプロジェクト第4弾を開催します。

○「いのちのつどい」（3月11日を中心に）開催（本文に掲載）

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しました。＜公式web <http://www.ritsumei.ac.jp/rs/20110311/>>

編集後記

2015年1月17日（土）阪神・淡路大震災発生から20年目を迎えました。災害復興支援室では、立命館土曜講座1月のテーマ「巨大災害にどう向き合うか～阪神・淡路大震災から20年～」17日、24日開講し、大変寒い日でしたが毎回100名以上の来場者に聴講いただきました。31日の3回目を残すのみとなりました。次回の瓦版では詳細をご報告させていただきます。
3月で東日本大震災発生から4年目を迎えるとしています。被災地の皆さまにとって一日も早い復興をお祈りしつつ、支援活動に動みたいと思う毎日です（ひ）